

第7号

地区懇談会の様子や、復興まちづくり計画に関する情報をお届けします。

東松島市復興まちづくり

ちくこん 地区懇談会だより

みんなで話し合おう

まちの問題、将来について

このまちが好きだから

このまちに住みたいから

地区懇談会とは

市では、東松島市の復旧・復興に向けた「復興まちづくり計画」を策定しています。その計画に、市民の皆さんの思いや意見を反映していくため、主に8つの自治協議会単位で、市や地区の復興まちづくりについて話し合う「地区懇談会」(略称ちくこん)を開催しています。

大曲浜地区懇談会を開催しました。

9月20日、大塩市民センターにおいて、大曲浜地区懇談会を開催いたしました。150名の方が集まり、復興まちづくり計画の説明のあと、グループに分かれて話し合いを行いました。以下は、話し合いの主な内容です。グループの話し合いを進行したのは、高崎経済大学、宮城大学、東北工業大学の学生さんたちと復興まちづくり推進員の皆さんです。

1 避難所を安全に

「避難所の設定が甘かった」「浜には高台がないので逃げ場がなかった」「渋滞に巻き込まれて被害が大きくなった」という意見が多く出されました。また、避難してからも「食事の配給がなく苦労した」という話も挙げられました。避難所を安全な場所に設置し、そこに向かう避難経路も確保しなければなりません。電話等での通信が途絶え、家族の安否確認もできず、情報が全く伝わらないために不安な日々を過ごした人も多かったようです。一方、近所の人同士で物資を持ち寄ったり、炊き出しをしたりして助け合ったという話もありました。

2 住民意向にそった移転計画を

「土地の買い上げがどうなるか心配」「二重ローンへの対応が必要」という声が挙げられました。また、住民ニーズをくみ取った移転計画や住宅再建の方針を早期に、明確に示してほしいという意見が多く出ました。「高齢者が地域の人に見守られて暮らせる災害復興住宅」の整備のほか、「コミュニティ単位で移転すること」が必要だという話が多数ありました。そのためにも皆で話し合う場、一人ひとりが意見を言える場をもっとつくりたいという声も挙げられました。特に、若い人たちの意見も聞きたいので、年代別の懇談会も必要だという意見がありました。

3 収入になる仕事を

農業、漁業が再開できるまで、収入になる仕事がほしいという意見が出されました。若い人たちが、新しい仕事にチャレンジしていけるような制度が必要という話もありました。中小企業が撤退しないような対応も重要という意見も出されました。

4 仮設住宅の改善を

仮設住宅が高齢者向きではなく「住みにくい」、「寒くて狭い」「質に差がある」という意見が出ました。また、「人の交流がない」「さびしい」という意見もありました。仮設の困りごとに応える相談員さんに常駐してもらいたいという要望も出されました。



中学生が考える「こんなまちにしたいな！」②

矢本第二中学校の皆さんが、まちの将来について話し合いました。

9月20日、鳴瀬二中の皆さんとの話し合いに引き続き（第6号で紹介）、矢本二中に伺いました。生徒会役員の皆さんに集まっていただき「震災から立ち直っていくために、どのようなまちにしていきたいか」というテーマで話し合いをしました。「現在」、「20歳」、「40歳」、「65～70歳」の時に、どんなまちにしたいか、どんなまちに住みたいかについて考えました。話し合いの進行は、高崎経済大学などの大学生の皆さんです。

今	20歳になったら	40歳になったら	65～70歳になったら
<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまち ・津波のあとをなくしてほしい ・悲しい思いをのこさないでほしい ・浜をにぎやかに ・緑がいつばいな浜 ・漁業を元通りにしたい ・元通りの明るく、周りとのつながりのあるまち ・大人も子供もみんなが仲良く暮らせるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策をしっかりしているまち(太陽光の整備、防波堤、耐震性のある家、避難場所、避難ルート等) ・住民の意識が向上している ・人のために役立つ仕事につくことができる環境をつくってほしい ・職場の充実、就職先がたくさんあるまち ・医療施設の充実 ・緑豊かなまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・また地震がきても、今度は大丈夫なまちになってほしい ・働ける場の増加ですべての人に仕事があってほしい ・子供がいても女性が落ち着いて仕事のできる環境になってほしい ・全てのことに「震災」という文字がつかなくなつてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供ができれば安全なまちに住んでほしい ・住みよいまち(図書館、老人ホーム、介護施設が整備) ・見回りをしてくれる若い人が必要 ・周りをつながりをもって、助け合いながら暮らす ・震災の経験を伝える ・震災のことを教科書にのせる ・復興状況を伝える

まちの宣言文も考えました。

- ・安全第一のまち
- ・災害に負けないまち
- ・暮らしやすいまち
- ・つながるまち



地区懇談会の開催について ～まちづくりの主役は、市民の皆さんです～

地区懇談会は、地区の復興まちづくりについて話し合う場です。地区の皆さんから「話し合いをしたい」という要望を出していただきながら、随時、開催していきます。また、地区懇談会とは別に、もっと小さな単位（たとえば行政区等）で復興まちづくり計画の説明や皆さんの意向をうかがう機会もつくっていきます。

発行 ちくこんサポーターの会

発行日 2011年10月7日

お問い合わせ先 東松島市復興政策課復興政策班
0225-82-1111 内線 1241～1243

地区懇談会は参加自由です。

地区の現状、今後のまちづくりについて、みんなで話し合いましょう。若い方、女性のご参加もお待ちしております。